



令和3年度 水稻生育診断情報 No.4

(令和3年7月27日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は 8/20 頃の予定)

現在の生育状況

◎作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年より短く、茎数は平年並である。

「みずかがみ」の出穂期は、平年より2日遅い7月24日となった。

◎県内ほ場の「みずかがみ」では、7月20日頃を中心に出穂期を迎えている。

5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月26日頃に出穂期を迎えている。

管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！ 深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する。

◎いもち病の感染好適条件が出現しており、ほ場での発生状況を確認し、発生が認められたら防除を行う！

◎斑点米カメムシ類の発生状況は、大型カメムシ（ホソハリカメムシ等）が多い傾向にあり、防除は糊熟期頃（出穂10～20日後）に行う。ただし、カスミカメムシ類が確認できるほ場では乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過（彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均）

期間	要素	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	上旬	やや低い	平年並	かなり少ない	かなり多い
	中旬	やや高い	平年並	多い	かなり少ない

(2) 近畿地方1か月予報(7/24～8/23までの天候見通し)【大阪管区気象台7月22日発表】

- 近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多い。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率60%。降水量は、近畿太平洋側で多い確率40%、近畿日本海側で少ない確率40%。日照時間は、近畿太平洋側で平年並の確率40%、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%。
- 週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%。2週目は平年並の確率50%。3～4週目は高い確率40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査（7月20日時点）による。表1および後掲グラフ参照。】

- 両品種ともに草丈は平年より短く、茎数は平年並であった（7月10日調査）。
- 7月20日の葉色は、両品種ともに平年並であった。

表 1 令和 3 年(2021 年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草 丈(cm)				茎 数(本/m ²)				葉 色(SPAD 値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	74.0	79.3	93	81.8	510	522	98	453	40.2	40.6	99	43.2	12.4	12.4	0.0	12.7
	コシヒカリ	76.3	80.1	95	79.6	567	564	100	508	36.5	37.8	97	40.1	11.6	11.7	-0.1	12.1
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	38.0	99	40.4	13.0	13.2	-0.2	13.6
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	38.0	99	40.4	12.7	13.0	-0.3	13.4

※移植日：5月10日(播種日：4月20日)。栽植密度：18.5株/m²、植付本数は3本/株。

※平年は、H25～R2年(8年間)の平均値。

7月20日現在の生育状況



「みずかがみ」



「コシヒカリ」

表 2 水稲作況調査 生育ステージ(7月27日時点)

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	6月29日	2日遅い	6月29日
出穂期	7月24日	7月22日	2日遅い	7月24日
成熟期	未	8月24日	—	8月26日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月5日	7月3日	2日遅い	7月4日
出穂期	7月27日	7月27日	同日	7月30日
成熟期	未	8月31日	—	9月3日

※移植日は5月10日(播種日：4月20日)。

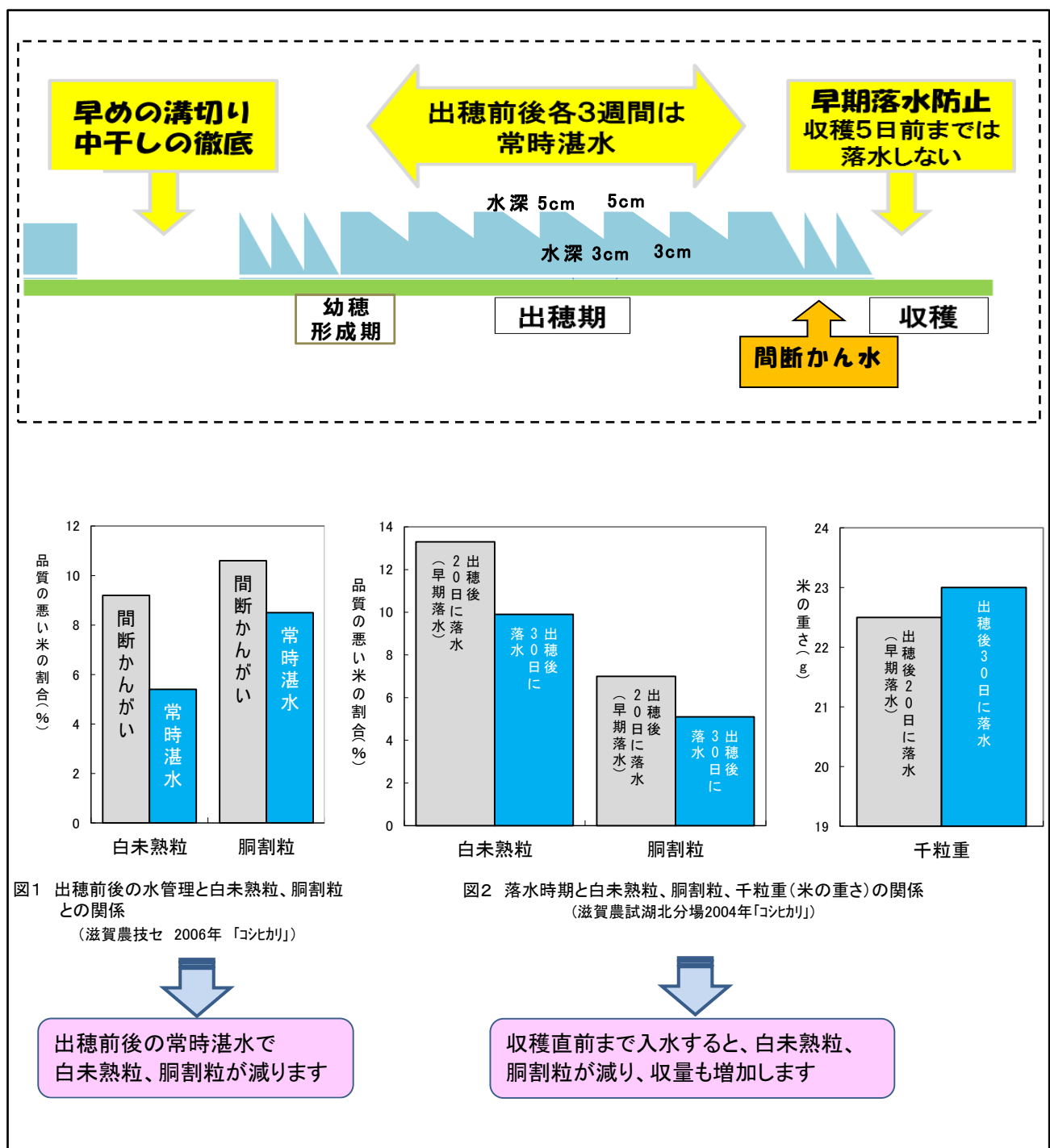
※平年は、H25～R2年(8年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 湛水管理では、深水にならないように、水深3cm～5cmの浅水管理を行う。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



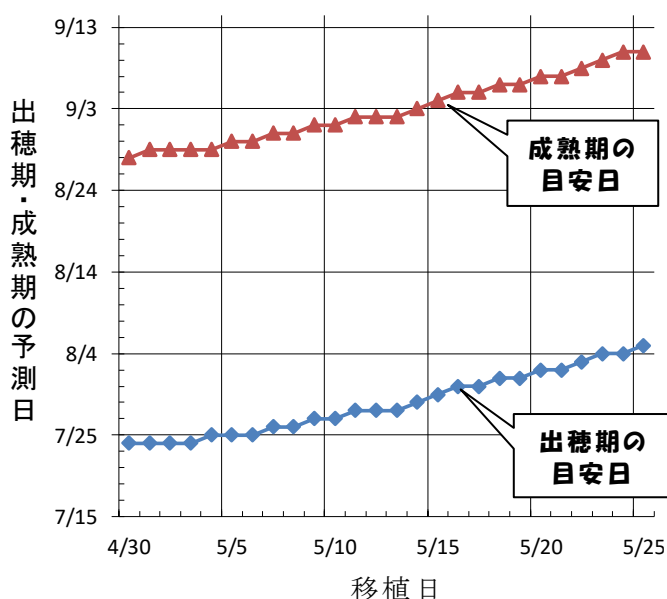
(2) 適期収穫

■ 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後 30 日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

■ 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(粃)の色をしっかりと確認し、黄化粃が 85～90% になった頃に収穫する(図 3)。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

【参考】「コシヒカリ」の出穂期
および成熟期の目安日

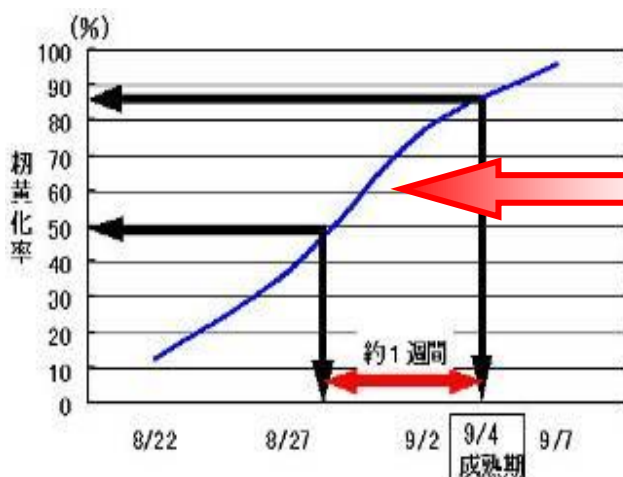


☆過去 8 年の登熟日数

品種名	出穂期から成熟期 までの日数
みずかがみ	32～34日
コシヒカリ	32～37日

※H25 年～R2 年水稻作況調査データより

注) 栽培管理支援システム(農研機構)による 7 月 20 日時点
の出穂期・成熟期を予測(近江八幡市安土町大中)。
近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれより
も早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。



この期間は急速に粃の黄化が
進むので、ほ場に入って穂を
確認する。

図 3 成熟期前の粃黄化率の推移(農業技術振興センター 2008 年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化粃の標準見本色を基準に黄化粃と青粃を目視で計数。

(3) 病虫害防除

7 月 20 日発表の「病虫害発生予報第 7 号」(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/> または 県 HP 組織から探す>農政水産部 病虫害防除所>発生予察>発生予察情報>病虫害発生予報) を参照

①穂いもち（発生時期：平年並、発生量：やや多）

→【一部地域で葉いもちの発生が多くなっています。注意報第1号「いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう！」を確認しましょう！】

- 「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」は、発生しやすいので特に注意する。
- 粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
- 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

②紋枯病（発生時期：やや遅、発生量：やや少）

→【ほ場での発生を確認しています】

- 前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。
- 病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

③斑点米カメムシ類（発生時期：平年並、発生量：やや多）

→【クモヘリカメムシやホソハリカメムシなどの大型カメムシの発生が多い傾向です。防除情報第5号「斑点米カメムシ類を適期に防除しましょう」を確認しましょう！】

- 防除情報第5号を参照のこと。
- 畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。
- 出穂期に大型斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂10～20日後）にも防除する。

④コブノメイガ（発生時期：やや遅、発生量：平年並）

→【ほ場での発生は確認していませんが、今後の情報に留意しましょう！】

- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上、または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。

⑤トビイロウンカ

→【本県では7月12日現在で予察灯や本田での発生は確認されていませんが、今後も要注意です】

- 例年より早く、中国大陸から日本に飛来している。これまでに、奈良県、大阪府、和歌山県、静岡県、三重県、岐阜県、徳島県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県の予察灯への飛来が報告されている。長崎県では、ほ場内での増殖も確認されている。
- 極早生品種および早生品種では、今後の防除の必要性は低い。中生品種および晩生品種では、7月下旬頃までに飛来した場合は、坪枯れ症状が発生する可能性があるので注意する。

- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上、または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。



病害虫トピックス ～トビイロウンカ編④～

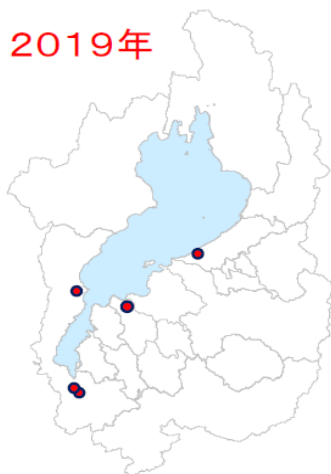


【トビイロウンカによる被害】

- ・トビイロウンカによる被害は、飛来世代や第1世代ではほとんど発生しません。主に第2世代成虫や、第3世代幼虫によって引き起こされます。
- ・トビイロウンカは、長い口（口吻）をイネに直接差し込んで水分や栄養分を吸い取ります。幼虫や増殖力の高い短翅型の成虫はほとんど移動しないので、イネの寄生虫数が急激に増加します。特に出穂期以降に多発すると、ほ場の一部が「坪」状に、急激に枯れるため、「坪枯れ」と呼ばれる被害になります。エサ（イネ）が枯れると、隣接するイネへ移動するため、同心円状に枯れていき、ひどい場合はほ場全体が枯れます。
- ・本県で「坪枯れ」被害が確認された地点をまとめてみると、飛来の多かった2020年では県内各所で確認されました。

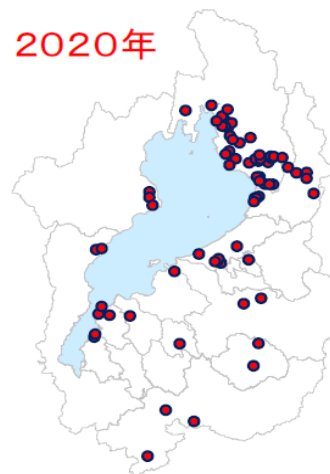
坪枯れ症状が確認された地点

（各農業農村振興事務所農産普及課、病害虫防除所調べ）



2019年

5地点・2ha未満



2020年

74地点・約130ha

（次回はトビイロウンカ編⑤「防除対策」について紹介します）。

【参考サイト】

農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nougicenter/>

病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

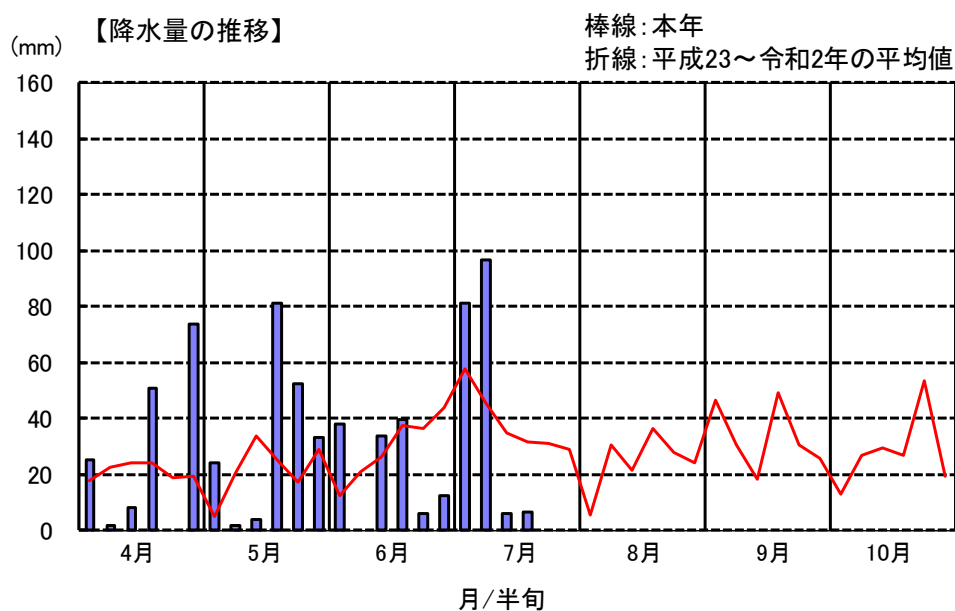
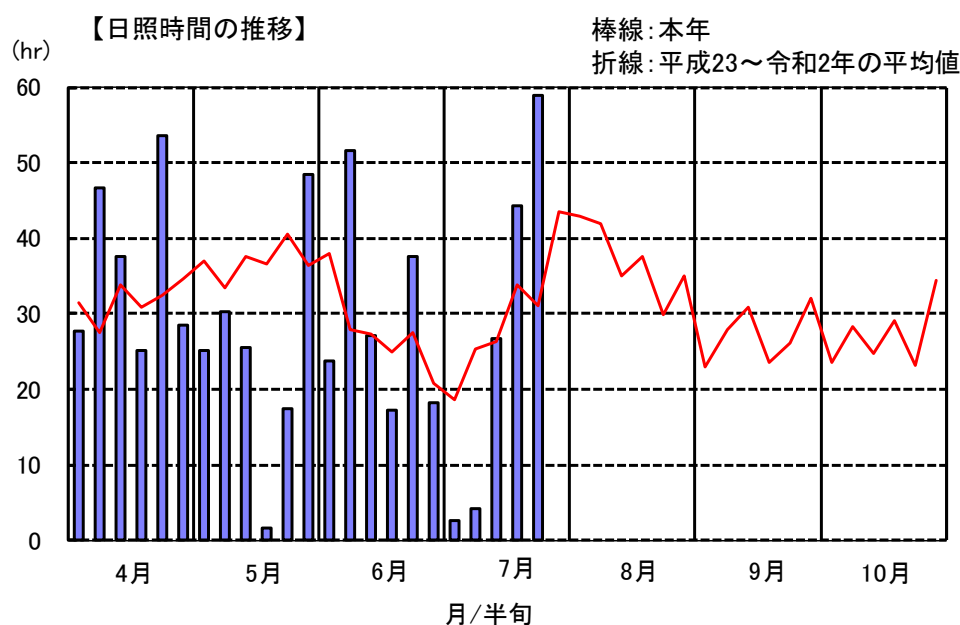
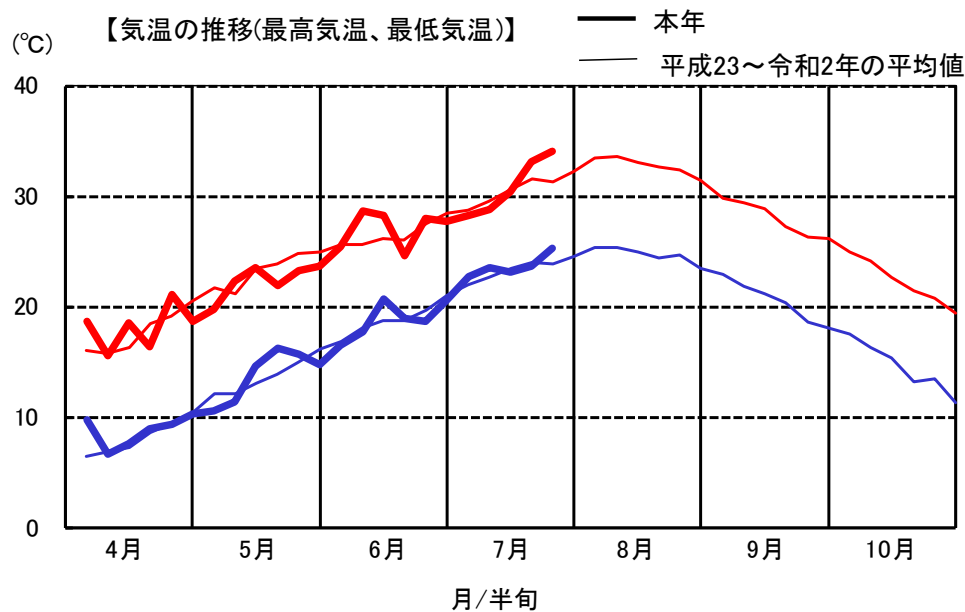
彦根地方气象台

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

早期天候情報

<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>

令和3年(2021年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根气象台観測)



注) 平年は平成23～令和2年の平均値。

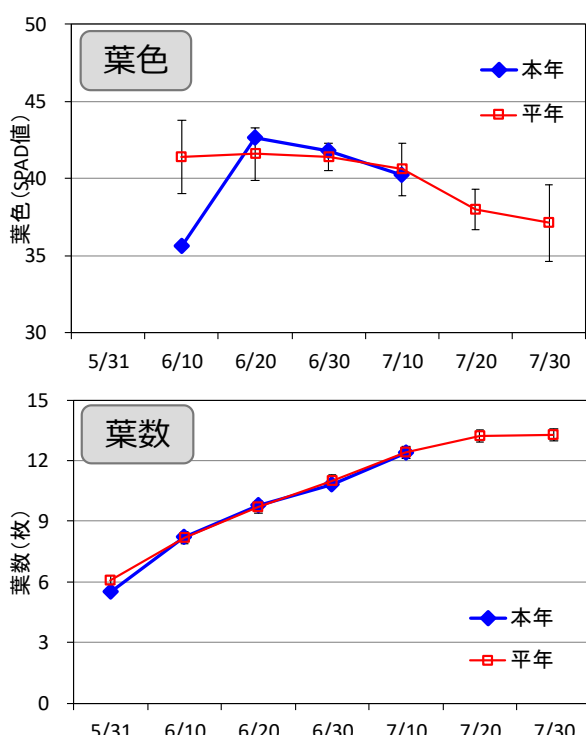
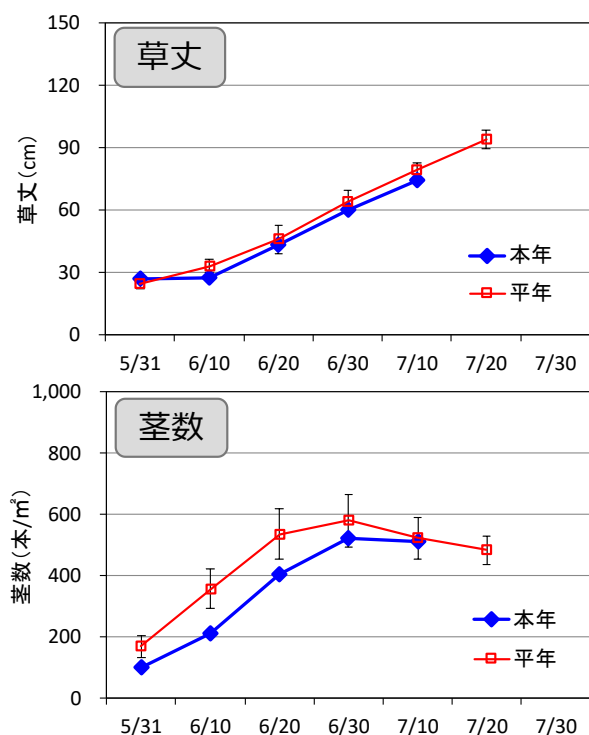
5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

令和3年(2021年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

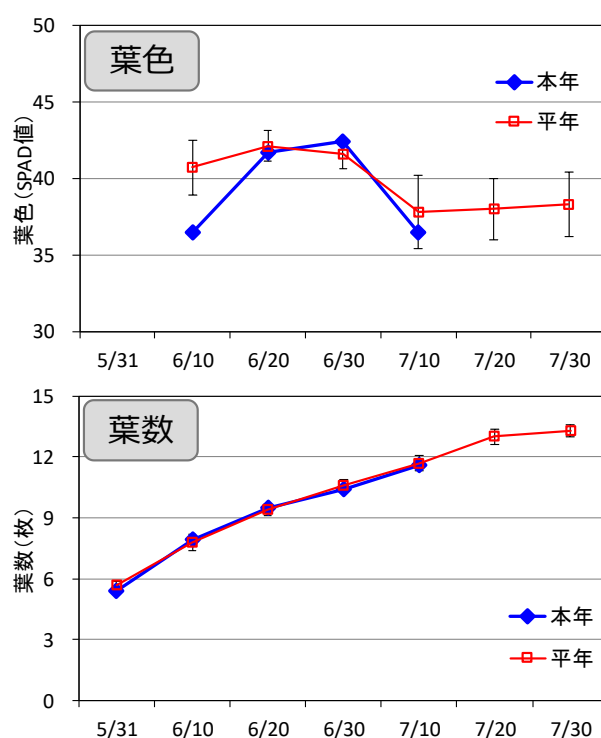
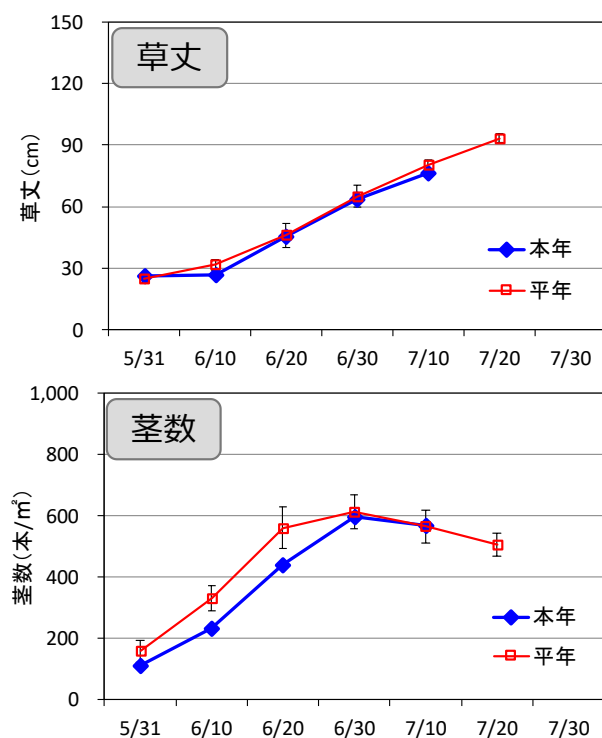
みずかがみ

播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



コシヒカリ

播種: 4月20日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去8年(H25年~R2年)の平均値。